

課題対応取組み報告書

名称	阿倍野区北部地域包括支援センター
提出日	令和5年6月21日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設 (居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり等
活動テーマ	地域、関係機関との顔の見える関係づくりと周知活動の強化	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・認知症、精神疾患等の相談の増加。 ・独居、認知症、キーパーソン不在、家族に障がいがあるなど複合課題を抱えるケースの増加。 ・ケアプランがオーダー型になりがちであり、サービス導入の必要性や意味を理解する必要がある。	
対象	地域住民、関係機関など	
地域特性	【高松地域】地域を大きな道路が分断していて南北で地域活動への参加率に違いがある。 【常盤地域】人口が多く高齢化率は低いが高齢者人口は多い。 【金塚地域】全域にわたってマンションや商業施設が立ち並んでいるが、マンション住居者の高齢化が進んでいる。 【文の里地域】一軒家が多く相談の上がりにくい地域であったが相談件数が増えている。	
活動目標	・地域活動に参加し包括の周知活動を行うとともに地域、関係機関との連携強化を図る。 ・認知症、精神疾患に対する啓発継続のためすべての地域で講演会の開催。	
活動内容 (具体的取組み)	①感染症対策を講じながら各地域の会館にて健康講座を行った。体成分分析装置Inbodyを使用し体の筋肉量や体脂肪を図り、データをもとに運動の助言を得ることで介護予防への取組みに活かしもらえるようにした。 ②認知症講演会を各地域で開催。笑いヨガを取り入れながら認知症についての啓発活動を行った。 ③地域活動の後方支援を行い情報収集、関係構築を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	①前年度に引き続きinbodyを使った講座をすることで、測定のために継続して参加する住民もいた。参加人数も増加し、コロナ禍で体力低下を懸念した住民が健康づくりへの関心が高まっていることが分かった。 ②認知症講演会で認知症の理解、予防のための啓発活動を行った。 ③金塚地域で月1回開催しているミニマーケットは、昨年度はコロナ禍の中ではあったが地域住民の集いの場として毎月開催することができた。文の里地域で健康のつどいを開催し、地域住民が意欲を持って健康づくりに取り組む場として定着している。	
今後の課題	・地域活動が再開している中で、後方支援を通じてあらためて包括の周知活動を行い関係づくりを強化を行う。 ・認知症、精神疾患等を抱える高齢者、家族の支援困難ケースに対する対応力を向上を目指して、他機関との連携、地域での講演会での啓発が必要。	

※以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和5年7月10日 (月)
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性・拡張性 <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目 (特性) についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議 会からの意見等を記載。	地域ごとに課題を抽出し、それにもとづいた取組みとして金塚ミニマーケットを実施していることから、「地域性」に該当する。毎月1回、コロナ禍でも借り続けた努力がみられるため、「継続性」も該当する。体成分分析計の活用や、買い物支援と顔の見える関係づくりをむすびつけた取組みは「独自性」に該当する。地域ケア会議から見えてきた課題についての取組みは成果を上げている。 金塚ミニマーケットはまだまだ知らない高齢者も多いため、広げていってほしい。また、各地域でイベントが再開しているため、包括も顔を見せてもらえたら、もっと浸透していくことが期待される。金塚地区は戸建てが1軒もない特異な地域なので、地域ケア小会議を再開してもらいたい。認知症や精神疾患の相談が増加しているという課題も抽出しているため、今後はこの課題への取組みも深めることを期待する。